

第8期下野市高齢者保健福祉計画の令和3年度事業結果への意見助言等一覧

委員名	ページ No.	施策の内容	意見助言内容
渡辺欣宥	80	社会活動への参加 推進	<p>●老人クラブ数の減少、●老人クラブの参加率</p> <p>コロナウイルス問題で行政からは「活動の自粛」が求められているが、これでは活動ができなくなるのは必然である。</p> <p>この問題は確かに感染予防には効果がある反面、外出の機会がなくなり、その反動で認知症者数が増加しています。この相反する課題を、行政はどう対処するのかの具体的な指針が欲しい。</p>
鈴井祐孝	81	社会参加、地域での活動	<p>従前の社協や包括支援センターとの連携もさることながら、実際に高齢者と接触している公民館や、新しく開設される市民活動センター等も連携を密にして実効をあげる。</p>
鈴井祐孝	83	疾病の早期発見と適切な管理	<p>令和3年度の実績が30%を切っている事は、誠になげかわしいこと！</p> <p>指導が至らないのは恥ずかしいこと。これも先ほどと同じように繰り返し高齢者に話しかけて、地道な努力が必要と思われる。パンフレットを配布しても年寄りには読まないことを識るべし。</p>
鈴井祐孝	87	介護予防サービス	<p>利用延人数について、目標に対して実績が極端に少ないのは何故か？</p>
鈴井祐孝	91	配食サービス事業	<p>見守りの省略を求める利用者があるということは、どういうこと？</p> <p>声かけふれあい収集事業の実績を参考までに教えて欲しい。</p>
鈴井祐孝	93	地域における支え合い活動の啓発	<p>自治医科大学看護学部との連携事業である生活実態把握調査は、評価で伸びている通り地域の活動をうながす絶好の機会と承知しているか。</p> <p>令和3年度の自治会の報告会は、是非実施していただきたい。令和4年度の実施計画もきかせて欲しい。</p>
鈴井祐孝	111	多職種研修の実施	<p>「つるカフェ」は大変貴重な研修機会であるが、当市の関係者はどれ程Zoomを含めて参加しているのか知りたい。</p> <p>ふれあいサロンの高齢者等にもっとアピールしたらどうか。</p> <p>毎年11月23日に東京で行うフォーラムも素晴らしい内容である。</p>
鈴井祐孝	120	生活支援の担い手との質の向上と連携	<p>当市に発足・活動している有償ボランティアの実態を知ってもらい、強力な支援をお願いしたい。いろいろな支援の中のすき間を格安で埋めている。</p>

委員名	ページ No.	施策の内容	意見助言内容
鈴井祐孝	124	高齢者見守りネットワーク	協定事業者数がわずかでも増えていることは喜ばしいが、協定してハイ終わりではなくて、実態実効はどうか知りたい。実際に毎日見守り業務を実施している自治会連合会等との同じテーブルについて、語り合うのもいいのでは・・・。
手塚誉	91	生活支援対策の推進、声かけふれあい収集事業	実際に生活支援といっても、支援を受ける者、支援をする者同士に信頼関係がない中では難しいと思う。昔のように近所付き合いが密であれば、お互いに信頼関係が出来上がっているならば別。現在はこのような関係はない。実際には、生活支援を受けたい人は潜在的には多数いると思います。また、支援をしたい人もチームオレンジしもつにに登録している人は80名もおります。この人達とどう結び付けるかだと思います。私は増員された認知症地域支援推進員の皆様に期待したい。
手塚誉	121	住民参加型有料サービス	住民参加型有料サービスについての報告はありませんが、現在のような地域の状態、住民同士の自主交流が少ないほとんどないような状態では、地域で住民同士の助け合い支援し合うということは当面難しと思われまます。 そこで、割り切って住民参加型有料サービスを拡充・充実して対応してはと思います。
手塚誉	118	オレンジカフェ、家族会	介護で悩んでいる人が多い中で、参加者、出席者が少ない。実際に参加してみようと思っても、意外と敷居が高く、誰かの後押しがないと跨げないのが現実と思われまます。この後押しを一番介護者の状態を知っているケアマネジャーや地域包括支援センターの職員にやってもらうため、年に何回か打合せ会をして対策を考えたらと思います。
関口賢治	125	感染症の拡大防止	事業所としても、マスクや手袋の定期的な配付、ワクチンの優先接種、高原検査キットの配付等、とてもありがたかったです。福祉従事者が感染のリスクを少しでも低くし、利用される方にしっかりとしたサービスを提供するためにも、来年度に関しても継続した支援をお願いいたします。